
うなじ

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うなじ

【コード】

N3281Q

【作者名】

Litaly

【あらすじ】

愛でも恋でもない。だけど君のうなじから目が離せなかった。

君の名前も、君があの時幾つだったかも、正直に言えば顔すらはっきり思い出せないよ。

思いだせる事といったら、幾つかのエピソードの断片くらいだけど、それだって実のところ、君との思い出かどうか怪しいところなんだ。

あれは恋だったのか？
多分違うと思う。

君だって僕に恋なんてしてなかったでしょう？

分かってるよ。

愛とか恋とか、そういうあれじゃなくても、何故かなんとなく恋人になっちゃう事ってある。

セックスもしない、手だって滅多に繋がない。

電話も一週間に1、2回。

会うのはもっと少ない。

それでも何故か恋人だった。

君は君の友達に僕を彼氏って紹介したし、僕は友達がほとんどいないから君を紹介したりしなかったけど、紹介する機会があったら多分僕の彼女ですって言って紹介したと思う。

お互い恋してない事はかなりはっきり分かってたけど、でもなぜか確定的に「恋人」だった。

夕暮れの街を並んで歩いてさ、君はいつもどうでもいいような事を、ほんとどうでもよさそうに気だるげな顔で話してて、その横顔を見ててさ、君のうなじがこの世のものと思えないくらい綺麗だった事だけ、覚えてる。

正直君を思い出す事なんてもうほとんどないよ。
数年に1度あるかないかだ。

でも、時々、不意に君のうなじの事を思い出すんだ。
はっきりと鮮明に。

変な話だよ。

君の顔も声も思い出せないのに、うなじだけ、鮮明に思い出すんだ。
きつとまたしばらくしたら僕は君を忘れちゃうだろうし、だから絵に書いといた。

顔は大分違う気がするけど、大事なのはあくまでうなじだから、それはまあいいんだ。

それなりに深い話もした気がするし、それなりのデートスポットに行った事もあった気がするけど、そんなのより、あのうなじをチラッと見た瞬間が僕にとってはハイライトなんだ。

いつかどこかで偶然出会っても、僕は君に気づかないと思う。
君も多分僕に気づかない気がする。

お互いあの頃と全く変わって無かったとしてもだ。

なんかこういうのって変な感じだ。

僕の人生は、僕が思ってるよりよっぽど不安定なバランスの上に成り立ってて、僕が自覚してるよりよっぽど信頼性の乏しい記録媒体に刻まれてるようだ。

自分っていう人間がイマイチ信用できない。

でもなぜか悪い気分じゃない。

愛でも恋でも無かったし、通じ合う努力もお互いしないまま別れたけど、だけど、あれはやっぱり悪くない思い出だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3281q/>

うなじ

2011年1月26日00時17分発行